

# 令和3年度 生駒市環境モデル都市及びSDGs 未来都市推進協議会

## 【議事要旨】

日時：令和4年2月21日(月) 10:00~12:00

場所：オンライン

### 1. 配布資料

- 資料1：環境モデル都市及びSDGs 未来都市推進協議会会員名簿
- 資料2：環境モデル都市における令和2年度の実績の評価結果
- 資料3：SDGs 未来都市等進捗評価シート
- 資料4：令和2年度 生駒市環境モデル都市 取組実績
- 資料5：令和3年度 生駒市環境モデル都市 取組進捗状況
- 資料5補足：令和3年度の主な取組
- 資料6：生駒市 SDGs 未来都市計画(修正案)
- 資料7：SDGs 未来都市計画の主な修正内容

### 2. 協議会出席者

区分	所属	氏名
会長	大阪大学大学院 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 教授	下田 吉之
副会長	エコネットいこま 代表	矢田 千鶴子
委員	奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授	横田 明徳
委員	一般社団法人 市民エネルギー生駒 代表理事	楠 正志
委員	生駒市自治連合会 副会長	辰野 文夫
委員	生駒商工会議所 専務理事	大原 暁
委員	社会福祉法人 生駒市社会福祉協議会 課長	宮西 泰介
委員	関西電力送配電株式会社 奈良支社 総務部奈良コミュニケーショングループ リーダー	正木 紘一
委員	大阪ガス株式会社 ネットワークカンパニー 北東部導管部 地域コミュニティ室 室長	小野 充
委員	近鉄不動産株式会社 経営企画室 部長	楠 浩治
委員	奈良交通株式会社 経営戦略室 統括部長	松本 英喜
委員	株式会社南都銀行 生駒支店 支店長	吉田 慎太郎
事務局	生駒市地域活力創生部長 生駒市地域活力創生部次長 生駒市 SDGs 推進課長 生駒市 SDGs 推進課課長補佐 生駒市 SDGs 推進課 SDGs 未来都市推進係長 生駒市 SDGs 推進課 SDGs 未来都市推進係員	領家 誠 川島 健司 武元 一真 木口 昌幸 上野 貴之 藤村 佳生

### 3. 議事録

1. 開会	
2. あいさつ	
3. 会員紹介	
4. 案件	
(1) 令和2年度の取組の進捗報告について	
事務局	資料2, 3について説明。
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温室効果ガス排出量の算定方法について、電気は関西電力、ガスは大阪ガスだけで計算しているが、自由化に伴う離脱者が考慮されていないため、推計としての精度が悪いように感じられる。それは本当に減っているのではなく、他の事業者から供給を受けている話になると思うが、そこはどう考えているのか。</li> <li>・現状の家庭部門での新電力へのスイッチング率は全国平均で約20%程度であり、単純計算でそれだけの差があることになる。これはガスも同様。</li> <li>・また、生駒市の環境モデル都市としての取組の柱であるいこま市民パワーの売電量がどれくらい温室効果ガス削減に貢献したかも把握できないのでは。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘の通り、温室効果ガス排出量の中に自由化後の新規事業者に移行している使用量が加味されていない状況になっている。電気については、令和2年度からは発送電分離に伴い、市域の全量を把握することが可能になる。その場合に、これまでの算定方法との整合性について考える必要があるため、内閣府に確認をとっているところ。内閣府からの回答を踏まえて、今後の算定方法を検討していく予定。</li> </ul>
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一つ大事になってくるのが、再エネ比率の高い電力を選ぶ市民が増えてくると、排出係数を固定している現状の評価の意味はなくなってくるかもしれない。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状では関西電力の排出係数を用いている。電力会社によって、それぞれ排出係数が異なるので、その集計方法も検討しているところ。</li> </ul>
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発電設備の設置状況について、現状と今後の動向について市として把握しているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源エネルギー庁が自治体向けに公表しているFIT認定・申請設備情報がある。その範囲で認識している。</li> </ul>
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年の実績である28,900MWhというのは近隣の同様自治体と比較してどの程度なのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣自治体の設置状況等については把握できていないが、今後そういったデータもとっていきたいと考えている。</li> </ul>
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気の自給率の把握なども重要になってくると思う。近隣では淡路島が自給率30%になっている。国の目標値との整合をとりながら目指していただきたい。</li> </ul>
(2) 令和3年度の取組の進捗状況と今後の取組予定について	

事務局	・資料5 補足について説明。
矢田副会長	・SDGs・環境フェスティバルについて説明
楠正志委員	・生駒市民共同発電所5号機について説明
下田会長	・生駒市民共同発電所5号機を屋根ではなく、法面に設置した理由は。
楠正志委員	・設置場所の法面は、既に3号機を設置している場所のすぐ隣。ここは、南向きで発電効率も非常にいい。 ・法人としての儲けは二の次だが、これまでも法面で設置・運用してきた太陽光発電実績から、確実に事業収支を予測できる法面で設置することとした。
下田会長	・こういった取組が全国に波及していくには、やはり儲かることも必要な視点。
下田会長	・昨今のエネルギー価格高騰の中で、新電力会社には経営上の苦労などもあるかと思う。 ・いこま市民パワーではそういった点はいかがか。
事務局	・電力市場の価格の高騰など、厳しい局面ではある。 ・これまで通り経費を抑えながら、供給先も拡大しつつ、次年度の調達電力を工夫しながら、事業収支を維持する方向で進めていきたいと考えている。
下田会長	・国際情勢、脱炭素社会の実現に向けた、様々なエネルギー産業の国際的なやり取りの中で、長い目で見れば一時的に厳しい状況に追い込まれていると思う。 ・この新電力会社を、生駒市として守り育てていくことはとても大事だと考えている。これからも努力をお願いしたい。
楠正志委員	・いこま市民パワーは地域の再生可能エネルギーの普及に向けて取り組んでいる。市民に浸透させるのが、私たちの使命だと考えている。 ・いこま市民パワーでは、今年度から市内家庭の FIT 切れ太陽光発電からの余剰電力買取を開始した。 ・市民エネルギー生駒からもこの取組を応援する意味合いで、市民共同発電所への出資者に対して買取単価を増額している。こういった形で市民のメリットを出すことも大切。
下田会長	・電気代の中には再生可能エネルギー発電促進賦課金のように、電気を利用する国民が一律で徴収されるお金が含まれている。 ・再生可能エネルギーの促進をしたい意思があれば参加でき、この賦課金として払った金額が還元されるような仕組みが必要だと思う。 ・そういう意識を生駒市民に持っていただいて、さらに参加者を募ることは重要だと思うので、市としても考えていただきたい。
(3) 生駒市 SDGs 未来都市計画の時点修正について	
事務局	・資料6 について説明。
矢田副会長	・計画上の KPI である、いこま市民パワーの電源における2024年度の地産再生可能エネルギー比率43.3%の設定根拠は何か。
事務局	・同社の中長期計画で定めている目標値。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在計画中の市内で建設予定の民間主導による木質バイオマス発電所からの調達も含めての数値となっている。</li> </ul>
矢田副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じく、計画上の KPI である、いこま市民パワーによる 2030 年度の家庭への供給戸数目標 1, 000 戸については、その設定根拠は何か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年9月に開始した市内家庭向けの電力供給戸数の現状を踏まえ、当初計画を修正し、実現可能な目標値としたもの。</li> </ul>
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再エネ比率の増加分は木質バイオマス発電によるものなのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘の通り。この再エネ比率に家庭の卒 FIT 電気の買取量を含めると、実際はもう少し高い比率が見込めるかもしれない。</li> </ul>
5. 意見交換	
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案件としては以上だが、最後に、委員の皆さんからお一人ずつ意見を頂戴したい。</li> </ul>
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私と、奈良先端大と、AKJapan(株)の共同事業により、廃棄物として捨てられている作物の資源化と遊休地の高度利用を実現することを目指している。</li> <li>・この事業で目指すのは、キャベツの外葉など、普段は捨てられてしまうが、たんぱく質が多く含まれている食物を活用でき、SDGs の 3, 9, 11, 15につながる。</li> </ul>
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業に関連する話なので、事務局から本日欠席されている農業振興協議会の井上会長にも共有をお願いしたい。</li> </ul>
辰野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿ノ台などの地域をはじめ、自治会でも新たな試みを前向きにしているところ、引き続き、より良い生駒市に向けて取り組みを続けていきたい。</li> </ul>
大原委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生駒市の環境モデル都市、SDGs 未来都市の核となるいこま市民パワーの取組のさらなる発展に向けて、本会の皆様の知恵をお借りしながら進めていけたらと考えている。</li> </ul>
宮西委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者支援の取組を実施しているが、コロナにより利用者が減少している。感染対策を実施しながら模索しているところだが、今後も継続していきたい。</li> </ul>
正木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電力の安定供給に努めると同時に、関西電力グループとしても協力できることがあればと考えている。</li> </ul>
小野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度から、ガスも導管分離が実施される。</li> <li>・事業者として提案できることは積極的に提案していきたいと考えている。</li> </ul>
楠浩治委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめて本会議に参加し、生駒市の取り組みについて勉強させていただいた。</li> <li>・当社の本年の取り組みとしては、住まいに関するワンストップサービスとして「住まいと暮らしのぷらっとホーム」窓口拡大、新型コロナに対応するため近鉄東生駒駅に無人化相談窓口「SMART SPOT」を開設。住まいの情報ステーション機能強化により、住み替えサイクルの促進、リフォームに対応した相談・提案、セミナー等による活動を行ってきた。</li> <li>・今後も多様な暮らし方に対応したまちづくりに努力していきたいと思う。</li> </ul>

松本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー関連の取組としては、電気バスの導入に向けた実証実験を令和3年12月に実施した。</li> <li>・これはSDGsの7, 11, 13のゴールに資するもので、乗り心地と環境配慮の両立ができるもの。</li> <li>・そういった取組もしているので、生駒市とも連携していけたらと考えている。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当行は「いこま市民パワー(株)」の事業への参画や、生駒市環境審議会 いこまSDGsアクションネットワークへの参加など、積極的に生駒市の環境施策へ取り組んでいる。</li> <li>・各種会合等の都度、生駒市の環境施策が市民（市内事業所含む）に十分周知されていないのではとコメントさせていただいている。</li> <li>・本日の会議で説明があった取り組みは、やはり市民の協力があってこそ実現できるものとする。</li> <li>・地域金融機関として、自らが環境問題に取り組むだけでなく、案内や勧誘などの周知活動にも一層注力していく所存である。</li> </ul>
矢田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横田先生からご紹介のあった取組について、既にキャベツの外側も芯も食べるというところは実践してきており、もったいなさから取り組んでいたものが、実は栄養学的にも良いものと知れて喜ばしい。</li> </ul>
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生駒はやはり市民力の高さ、市民自らが実施している事業、催しの豊かさは他市に対してかなり先駆的なものだと思っている。</li> <li>・コロナが収まった後、ヨーロッパではグリーンリカバリーと言って、経済活動の復活に向けて進めていく際、これまで通りではなく、カーボンニュートラルやSDGsなど、持続可能な新しいやり方に発展していくという考え方が主流になってくる。</li> <li>・これに乗り遅れてしまうと、日本の将来は怪しいと考えている。</li> <li>・SDGsの取組をどれだけ伸ばしていくかはとても重要であり、その先例を生駒市で生み出していきたいと思っている。</li> <li>・国でも、市民の行動変容がキーワードになっていて、単なる省エネルギーだけでなく、再・新エネルギーを選ぶといったことや、食に関する行動変容が必要だと言われている。</li> <li>・そういったところを先取りした形で、生駒市の活動を発展していただければ。</li> </ul>
6. 事務連絡	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国により脱炭素ロードマップが策定され、自治体への集中的な支援が計画されているので、生駒市としても積極的に取り組んでいきたい。</li> <li>・必要に応じて本協議会での協議や、各事業者・団体との連携をお願いする場面も出てくるかもしれないが、その際はご助力いただきたい。</li> </ul>
7. 閉会	

以上